

課題番号 1

基本方針：Ⅱ		課題名：小ギクの高品質・安定出荷
対象：西和花卉部会（109名）		計画期間：R 4～6
		事務所名：北部農業振興事務所
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R 5年度末）
盆需要期を中心とした最盛期の安定出荷の推進 ①県育成盆咲き品種の普及 ②盆電照栽培の推進 ③8月下旬電照栽培技術の向上 病害虫被害等の軽減による高品質化の推進 ④病害虫防除技術の向上	・県育成品種栽培指導 ・情報提供 ・盆咲き品種開花予測調査 ・電照栽培技術指導・調査 ・電照栽培研修会の開催 ・技術指導・調査 ・鱗翅目害虫2種の発生予察調査 ・病害虫防除現地指導 ・情報提供 ・品質向上対策講習会の開催	県育成盆咲き品種栽培面積 69a → 38a 盆電照栽培面積 3.7ha → 5.5ha 8月下旬電照栽培適性品種 0品種 → 1品種 共撰出荷秀品率 83.3% → 85.7% 西和花卉部会 SNS 登録者数 0人 → 42人

総合評価（コメント）

A：6名

- 後継者・参入者の増加につなげていただきたい。
- 盆需要期の安定出荷により販売高にもつなげている。
- 消費者トレンドの動きも速く、対応に苦慮されることも多いが、農家の経営を安定させ、産地の将来の維持・発展につなげて行かなくてはならない。
SNS等による情報が有効であることを周知し、利用者の拡大につなげてほしい。
- 異常気象で毎年想定外の事が起こるようになってきているので、適性品種の選択と適期防除の情報発信をずっと続けてますますのご指導をお願いします。
- 電照栽培普及活動の継続による成果を感じました。病害虫に強く見た目もよい奈良県の新品種の開発を期待しています。
- 責任産地としての高品質、安定出荷を行うための努力を今後も期待したい。また、盆季咲き品種をうまく普及させてリスクヘッジなども行い小ギク生産日本一のブランドを引き続き維持し、次世代につなげていってほしい。

普及指導計画への反映状況等

- 電照栽培や発生予察については、生産者・流通関係者ともに要望が高いことから、引き続き重点的な支援を行います。また、品種育成についても、農業研究開発センターとの連携をさらに密にして、より現場ニーズに合致した小ギク新品種の開発・普及を目指します。
- 経営の効率化・安定化のためには、出荷情報のデジタル化やデータ連携等がこれからの大きな課題であり、SNSの取り組みはその前段階とも言えます。「平群の小菊」は歴史ある産地ですが、若い後継者や新規参入者にも魅力的な経営を確立するため、JAと連携したIT技術の活用にも積極的に取り組んでいきます。